



## 2007年度分野横断的演習について（案）

---

2008年4月3日  
内閣官房情報セキュリティセンター（NISC）

# 2007年度分野横断的演習の概要

1. 日時 2008年2月6日(水) 13:00~18:30
2. 場所 (株)三菱総合研究所 2階セミナー室 他(千代田区大手町)

### 3. 参加者

(政府)

内閣官房情報セキュリティセンター、重要インフラ所管省庁

(重要インフラ分野:10分野)

情報通信、金融、航空、鉄道、電力、ガス、政府・行政サービス、医療、水道、物流

(CEPTOAR:7分野11CEPTOAR)

通信、放送、銀行、生保、損保、証券、航空、鉄道、電力、ガス、政府・行政サービス

(関係機関)

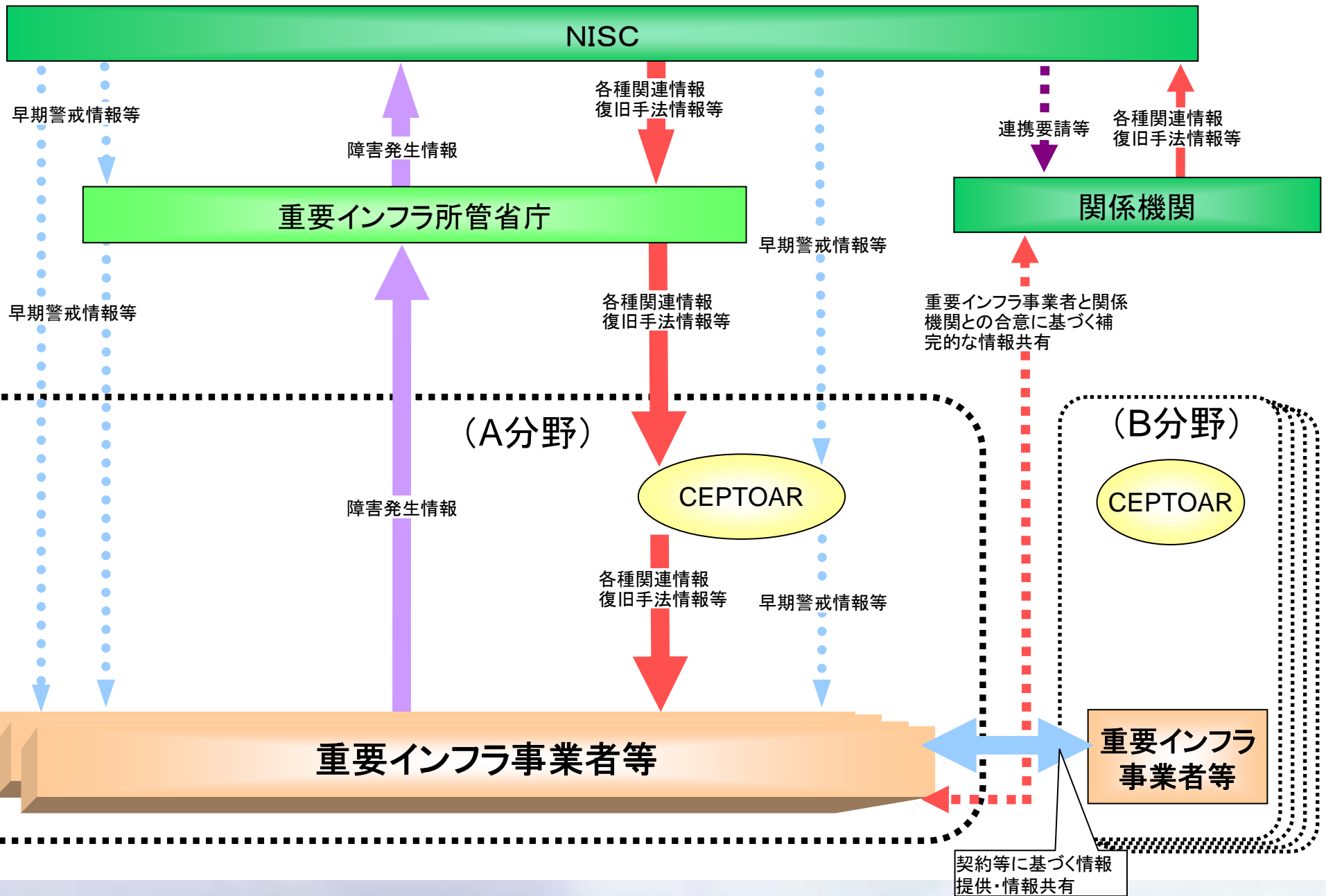
(分野横断的演習検討会有識者)

大林慶應義塾大学教授(座長)ほか、検討会有識者

### 4. 概要

官民の連絡・連携体制の機能と、IT障害発生時の対応能力の向上等を図るため、重要インフラ所管省庁、各重要インフラ事業者等及び各重要インフラ分野のCEPTOAR等の協力を得て、相互依存性解析の知見を踏まえつつ、想定される具体的な脅威シナリオの類型をもとにテーマを設定し、分野横断的な演習を実施した。

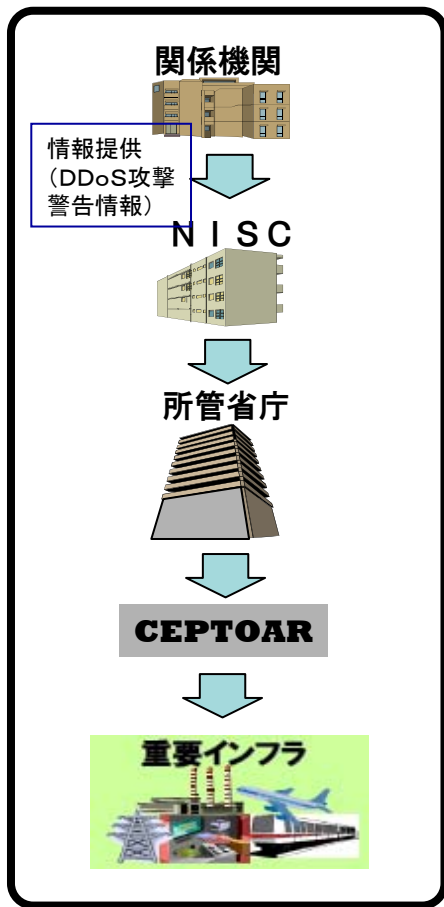




# シナリオの全体イメージ

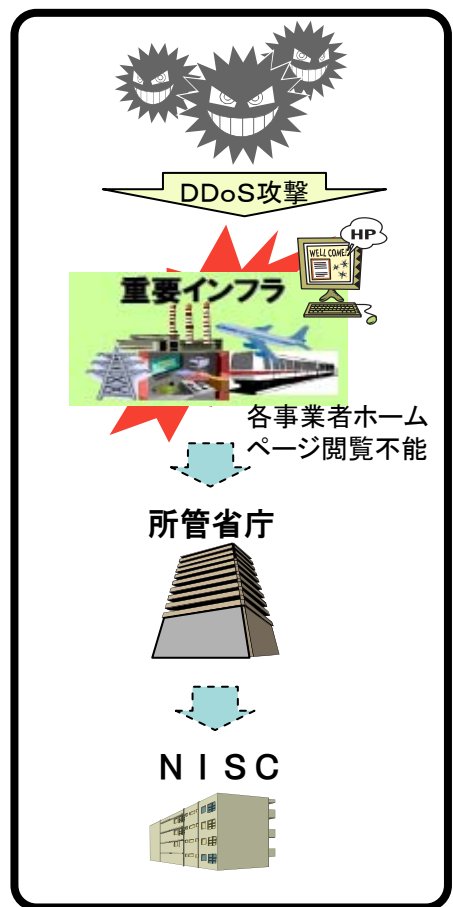
ステージ0

## 事前準備



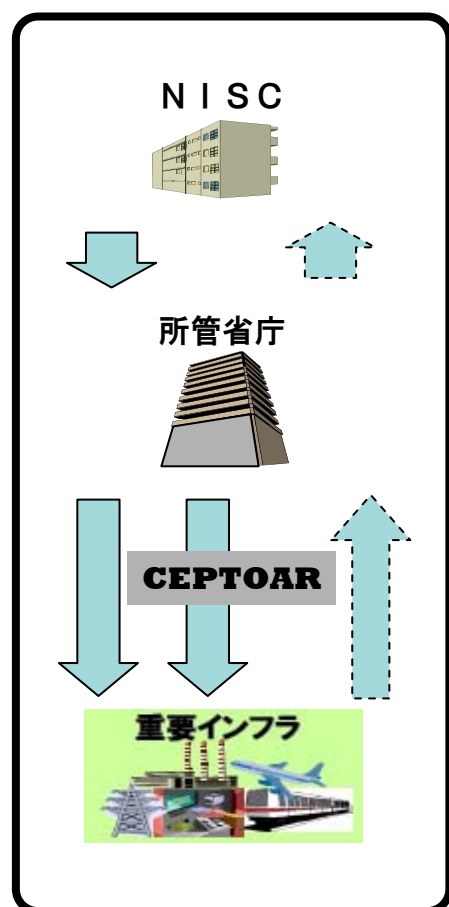
ステージ1

## 攻撃発生、状況認知と情報連絡



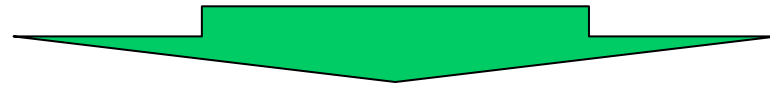
ステージ2

## 情報提供と対応策検討



注) 情報提供に、CEPTOARを介するか否かは、各所管省庁が判断

- 異なる分野からの参加者が顔を見合わせずに行う方法をとることで、機能演習として、より現実の状況に近い形での演習を実施できた。
- 「NISC、所管省庁、CEPTOAR、重要インフラ事業者からなる情報共有の仕組み」の検証において、事業者とNISCを両端とした情報の流れが想定通り機能することが確認された。
- サイバー攻撃に対する早期警戒情報の提供等を通じて、緊急時におけるサービスの維持・早期復旧のために事業者が必要とする情報の具体的内容の示唆が得られた。
- 緊急時に、サービスの維持・早期復旧と並行して情報連絡・情報提供を如何に行うかという課題や、実際に情報連絡・情報提供を行う際の、運用上の具体的課題が明らかになった。
- 事前情報の提供を端緒とした情報共有が、緊急時の情報共有にとって有効であることが明らかになった。
- 演習のパターンの検討、機能演習実施のためのシナリオへの反映、課題討議、演習の実施というステップを通じ、次年度以降の演習の方向性に関する示唆が得られた。



- 2008年度以降は、本年度までの結果から得られた知見等を踏まえ、想定される具体的な脅威シナリオ等、諸条件を元に研究課題として検証すべきテーマを設定し、重要インフラ事業者、CEPTOAR、所管省庁、NISCがプレーヤーとして参加し、テーマに応じた最適な演習手法（机上演習、機能演習など）による、より実践的な演習を実施。
- 情報共有体制については、実施細目、情報提供の迅速化、提供される事前情報の信頼性など、多くの課題が明らかになったことから、円滑な情報共有の推進のために、見直しを検討する必要がある。